

## 第1回玉城町地方創生会議 議事録

1. 日 時：2015年 08月 07日（金）10時15分～12時00分
2. 場 所：玉城町役場 第1委員会室
3. 参加者：〈地方創生会議委員〉

氏名	所属・役職
深尾 修身	平成工業会会長 京セラドキュメントソリューションズ株式会社 玉城工場 工場長
板谷 一満	玉城町商工会 会長
川井 勝	J A三重中央会 常務理事
猪俣 浩昭	総務省東海総合通信局情報通信部 情報通信振興課長
野村 浩	南勢志摩地域活性化局 局長
池山 敦	皇學館大学 教育開発センター 助教
平谷 信彦	百五銀行 田丸支店長
西村 幸泰	連合三重伊勢志摩地域協議会 副議長 (美和ロック労働組合 伊勢支部 副支部長)
松山 泰久	株式会社ゼロ 代表取締役
橘 るり	玉城町総合計画審議会 副委員長
中西 正光	玉城町総合計画審議会 委員

〈事務局〉

氏名	所属・役職
林 裕紀	玉城町 総合戦略課 参事兼課長
中川 泰成	玉城町 総合戦略課 係長
永井 友樹	玉城町 総合戦略課 主事
朝日 裕一	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社 (策定支援会社)
新川 卓矢	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
田中 亮伍	デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

#### 4. 次第

- 1) 挨拶
- 2) 委嘱状交付式
- 3) 町長挨拶
- 4) 委員紹介・事務局紹介
- 5) 議題
  - ①地方創生会議について
  - ②玉城町人口ビジョン・地方版総合戦略について
  - ③今後のスケジュールについて
  - ④その他

## 要点記録

【この会議録は要点記であり、すべての発言が掲載されているものではありません】

### 5. 町長挨拶

- ・今年が玉城町が60年を迎える節目であり、総合戦略等をつくる重要な年になる。
- ・本町は人口の減少率が低い町であるが、何もせずにその傾向が続くことはないと思うので、三重県、南勢志摩地域全体が持続発展していく計画を立てる必要がある。
- ・コンパクトな町の特性を活かすことが大事であり、本町の住みやすさを次世代につないでいくことが使命である。

### 6. 委員紹介・事務局紹介

#### 深尾委員

- ・玉城町は人口の減少率が少なく、それは玉城町に長所があるためである。その長所をはっきりさせ伸ばしていくことが大事。
- ・鳥羽、伊勢含め玉城町の周りの人口が減少する見込みがある。三重県全体でこれに対応していかなければならない。
- ・三重県、玉城町で働く意義を見えるようにしていく必要がある。

#### 板谷委員

- ・玉城町で育ち事業を継いでいる方が多く、玉城町で開業する人も増えてきている。
- ・こういう場で勉強し考えていきたい。

#### 川井委員

- ・前町長は田園都市を目指していたが、当時どういう都市なのかイメージが湧かなかった。
- ・玉城町は窓を開けると緑が広がっており、心が安らぐ。自分が生まれ育った風景を眺めることでストレスも多少は取れるということが、人間にはあるなと感じている。こういった風景を維持していくことが一番大切だと感じる。

#### 猪俣委員

- ・5月に市町村を対象に地方創生に関する説明会が名古屋市内であり、その日に林課長が当局を訪問されたことを記憶している。その後、本会議の開催と委員就任の話をいただいたところ。
- ・玉城町では前々からICT利活用について総務省関連施策を展開されている。これまでの情報通信基盤を地方創生でも十分に利活用していただきたく思う。私自身、これまで複数の地域振興に携わった経験を生かして、玉城町に合った地方創生の総合戦略策定へのご支援ができればと考えている。

#### 野村委員

- ・辻村町長から刺激を受けている。

- ・増田レポートによると、南勢志摩地域において 30 年後、玉城町以外の若年女性が 30%以上減少すると出ている。
- ・南勢志摩は海や川・山もあり、第一次産業や製造業・観光もそれなりにあり、広域連携ができる地域である。
- ・現在人口も増えており将来的にも微減である玉城町に、南勢志摩地域の広域連携における核としての役割を果たして欲しい。

#### 池山委員

- ・伊勢志摩定住自立圏という広域連携の中で、各市町が抱える様々な課題の解決に取り組むと思われるが、皇學館大学では課題解決に取り組めるアクティブシチズンと呼ばれる学生を地域の職場に送り込む取組みをしている。この取組みは、大学は地方の拠点であるべきという文科省の事業の中で行っている。
- ・伊勢志摩定住自立圏共生学のプログラム策定の仕事をしている。
- ・玉城町は 2005 年対比で 2035 年までに 3 市 5 町の中で唯一人口が減少しない町である。この事実から学べるがあると思う。

#### 平谷委員

- ・百五銀行は玉城町唯一の普通銀行であり、その他銀行は JA、郵便局である。
- ・150 社に融資をしており、総融資額は 30 億円を割っている。1 社当たり 2,000 万弱の融資額で、多くが小規模零細企業。大規模の工場もあるが、本社という点では零細企業が多い。
- ・最近事業承継に関する悩みを抱える企業が非常に多く廃業も懸念され、また新規事業を始めようとする人が少なく融資が細っており、融資の事業所先が減るスピードの方が早い。
- ・個人の取引先が多いが、田丸支店では総預金が 370 億円以上あり、お金を持っている町民が多いと思われる。
- ・銀行としてさまざまな企業との取引があり、その繋がりをこの会議で活用していただきたい。

#### 西村委員

- ・伊勢、度会、志摩地域の各企業が抱える約 60 の労働組合の役員である。
- ・玉城町出身で大学 4 年間で県外で過ごしたが、玉城が好きで戻ってきた。
- ・玉城は人口も増えてイベントも多くて良いと言われるが、出身者としては当たり前のことであり、なぜ玉城が良いのか理由を考えていきたい。
- ・働く立場から、子育てや育児・介護等の問題にも意見をしていきたい。

#### 松山委員

- ・玉城町の歴史や文化を調べたり、イベント等のお手伝いをしたりする中で、町の潜在能力の高さを痛感している。
- ・広域でこのエリアをどうするか考える際に中心になる町と思うので、強みを洗い出すと同時に弱みをどうカバーしていくかを考えるべき。

- ・玉城町は熊野古道の出発町でもある。

#### 橋委員

- ・資料を見ると、女性がいきいき暮らしていけるか否かが人口の歯止めにつながるというデータもあり、自分もそう思う。
- ・出生率を見ると、都市より田舎の方が子どもを産むことがわかる。若い女性に玉城町を魅力に感じてもらえれば、ここで子どもを産んで育てたいと思う人が増えるだろう。
- ・玉城町に定住したいという周りの声を聴くと、お金等よりも困った時に相談できたりするつながりやコミュニティが欲しいという声が多い。それが、玉城町がより発展していける土壌になると思う。

#### 中西委員

- ・生まれは玉城町で、県職員を5年前まで勤めてきた。
- ・昨年6月まで監査委員を務め、玉城町の行政を4年見てきた。みなさんが頑張っておられるが、いろんな面で課題も多く、そこに民間人として役に立てればと思います。

### 7. 議題

#### 1) 地方創生会議について

委員：玉城町人口ビジョンと玉城町総合戦略を合わせたものを、総合戦略報告書として冊子のようなものを作るのか。

事務局：最終的にはそうなる。まず玉城町の人口が移動しない場合の人口ビジョンは出ている。これに対して国は合計特殊出生率を上昇させた過程値をおいた算出を行っている。合計特殊出生率を2.1に持っていけば人口は維持できるし、国は1.8を目指しており、現状玉城町は1.5強である。これを1.8に持っていくにはどういう施策が必要かということも含めながら、まずは玉城町の人口ビジョンにおける合計特殊出生率をいくつに持っていかを策定したい。それに基づき戦略を作っていく、最終的な報告書は一つにする。まずはどのようにお子さんを産んでいただくかという目標値をつくり、それにどう施策を打つかの二段構えでやっていきたい。10月末くらいに人口ビジョンの策定を予定している。

#### 2) 玉城町人口ビジョン・地方版総合戦略について

委員：配偶率について、50～54歳のデータも欲しい。

事務局：次回以降参考値として出させていただく。合計特殊出生率の算出に用いられる女性比の年齢対象が15～49歳となっているため、今回はこのような範囲にて掲載している。

#### 3) 今後のスケジュールについて

委員：総合計画と総合戦略との関係はどうなるのか。

事務局：国の言い方も段々変わっている。国も最初は、総合戦略を策定している段階なのでそこに人口ビジョンを盛り込んだらもう作らなくていいだろうという話が随分出ていた。秋ごろには、総合戦略はあくまで東京都の一極集中を是正するために、地方に人と仕事の流れを作ることが前提のため、総合計画とは、別に作って欲しいと言われるようになった。それ以降、全国の自治体からの要望もあり、時間が経つにつれ総合計画と一緒にしても良いと言われてきている。玉城町は別に作ろうという方策をとった。もちろん玉城町総合計画が計画の中では上位に位置している。これから10年間のスパンの中の5年間の「安心して暮らせる町」という総合計画を作っていきながら、そのテーマの重点目標をしっかりと認識しながら、どのように町として地方創生法で言われる第一条の人口集中の分散をどうするかを細かく作っていきたい。人口減少しない町として、総合計画が上位にあるということを位置付けながら、まずは2060年を目指した5年間の総合戦略を作っていきたい。

委員：次回会議等のスケジュールの曜日の固定はできないか。

事務局：今後の開催日程は事前にスケジュールリングを行う。

委員：質問を今回からメールでさせていただいても良いか。

事務局：今回から対応する。

委員：ICTの先進の町なので、メールでやりとりしたい。

事務局：そのようにいたします。

委員：アンケートの回収率はどれくらいを想定しているか。

事務局：15～49歳の3,000件の対象者で、中学生には学校を通じて行ったため、回収率100%である。高校生、大学生は1,000人程に全数調査をしているが回収率は低く、アナウンス等で呼びかけを行っている。22～49歳に対しては、転入後1年以上の方と玉城町にずっと住んでいる方を合わせた1,500人にアンケートをしている。無作為抽出で回収率を上げるため、500件は個別で調査をしようとしている。保育所保護者300人、子育てサークル30人に顔渡しをしてお願ひしており、企業にも個別にアンケートの配布・回収のお願ひする想定である。回収率は総合計画を上回る40%に乗せたいと考えており、来週にアンケート対象の全3,000世帯にお礼状兼督促状のハガキを送ることになっている。

委員：3種類のアンケートがあるということで良いか。

事務局：おっしゃる通り3種類である。

委員：アンケートは策定支援会社で作ったのか。

事務局：事務局委員全体で話し合っただけで決めた。

#### 4) その他

特になし。